

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録
(第 3 号)

1 平成9年9月12日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1番 辻 田 実
3番 三 上 英 男
5番 忍 足 利 彦
7番 斉 藤 実
9番 島 田 保
11番 秋 山 光 章
13番 脇 田 安 保
15番 山 崎 雅 己
17番 岩 村 勝 弘
19番 川 名 正 二
21番 山 中 金治郎
23番 石 井 昌 治

2番 本 橋 亮 一
4番 小 幡 一 宏
6番 鈴 木 順 子
8番 増 田 基 彦
10番 宮 沢 治 海
12番 植 木 馨
14番 永 井 龍 平
16番 鈴 木 忠 夫
18番 日 下 君 敏
20番 神 田 守 隆
22番 榎 本 春 光
25番 飯 田 義 男

1 欠席議員 1名

24番 福 原 勤

1 出席説明員

市 長 庄 司 厚
収 入 役 永 野 修
総 務 部 長 鈴 木 完 二
経 済 環 境 部 長 小 沼 晃
水 道 課 長 鈴 木 基 博

助 役 小 幡 清 之
企 画 部 長 寺 嶋 清
市 民 福 祉 部 長 渡 辺 富 雄
建 設 部 長 鈴 木 信 一
教 育 委 員 会 長 高 橋 博 夫
教 育 会 長

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵 藤 恭 一
書 記 四ノ宮 朗
書 記 加 藤 浩 一

事 務 局 長 補 佐 鈴 木 哲
書 記 鈴 木 達 也
書 記 松 浮 郁 夏

1 議事日程(第3号)

平成9年9月12日午前10時開議

議案第47号 館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合規約の変更に関する協議について

- 日程第1 { 議案第48号 館山市乳幼児医療費支給条例及び館山市母子家庭・父子家庭等医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第49号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
- 日程第2 議案第50号 平成9年度館山市一般会計補正予算（第2号）
- 日程第3 { 請願第16号 「国民の祝日に関する法律」の改正の実現に関する請願書
請願第17号 「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択に関する請願書
請願第18号 「教育予算の増額に関する意見書」採択に関する請願書
請願第19号 「いじめ」を克服し、生き生きとした学校づくりのために、教職員配置基準の改善、中学校免許外教科担当解消予算の大幅増、学級編制基準日の改定を求める請願書
請願第20号 「いじめ」を克服し、生き生きとした学校づくりのために、第6次教職員配置改善計画の早期達成と義務教育費国庫負担堅持を求める請願書
請願第21号 「サッカーくじ本案」（スポーツ振興投票実施等に関する法律案）をやめ、スポーツ予算の大幅な増額を国に求める意見書提出についての請願書

開 議 午前10時02分

◎議長（石井昌治君） 本日の出席議員数24名、これより第3回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（石井昌治君） 日程第1、議案第47号乃至議案第49号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（石井昌治君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員辻田 実君。御登壇願います。

（1番議員辻田 実君登壇）

◎1 番（辻田 実君） 議案第47号館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合理約第13条の2項の改正について御質問を申し上げたいと思います。

三芳村の幼稚園の給食の実施に伴う改正であるとのことですが、館山市、富浦町も同時に実施できなかったのはどういうことであったのか。今後三芳同様に館山、富浦においても実施していく予定があるのかどうなのか、その点についてお考えを教えてくださいたいと思います。また、今後はこれらの対象者について全地域への普及ということは可能であるのか、それを前提にしているのかという点についてお考えをお願い申し上げます。

2 番目に、法律並びに規則で義務教育を対象とした給食センターの設置であったわけですが、したがって、昭和45年に給食組合ができたときに、市民から幼稚園の実施を求める要望が非常に多く出されまして、その都度私も繰り返し要望、また質問を続けてきたわけですが、するけれども、しかしながらこの給食制度が義務教育をもとにしているということ、幼稚園はあくまで義務教育でなくて任意の就学であるということ、それから給食で扱う経費は原材料費のみを徴収するというのもって小麦粉一つとっても政府の方の補助が出ておるので、これを義務教育以外の幼稚園等に実施することはあらゆる面でもって困難だということをいろいろとそれらの問題を含んで出されまして、これでは法律的、規則的に幼稚園で、義務教育以外にしていけるのはもうだめだなということでもってあきらめて今日に来たわけですが、そういう観点に立ちますと、今回三芳において幼稚園が実施できるということになったから、私の20年来の要望というんですか、そういうものがようやく日の目を見ることになったんだということでもって歓迎するわけですが、当時非常にそういうことでもってがんじがらめでだめだというものがどうして今回できるようになったのか、その点について一応お聞かせをいただきたいと思います。

3 番目に、新しく13条2項に幼稚園に在学する幼児を対象とするということになっておったわけですが、当初から問題になっておりましたのは、公立の幼稚園につきましては、これは館山は本間市長、さらに半沢市長の2代にわたりまして、全学区、それから全児童、幼小一貫教育ということでもって90%以上の方が幼児教育を受けるという全国にも例のないすばらしい制度を確立したわけですが、そうした中において問題になってきたのは、私立幼稚園もあるわけですが、さらには現在保育所がございまして、今保育所の4歳児、5歳児が200人近くいるということ。これらの人の扱いがどうなるのか。ここに、幼稚園に在学する幼児というのは公立、私立を含んでいるのか、また別なのか。給食実施になるとかなりこの辺は性質が変わってくるわけですが、法令の条文としてはそこら辺が区別されておられませんので、幼稚園に在学する幼児ということは私立も含むのか、公立だけのものか、この点を明確にしておかないと今後の運営について非常に支障を来すんじゃないかと思うので、この幼児

がどういう対象になるのか、解釈を明確にしていきたい。

以上、3項目にわたりまして御質問申し上げますので、回答によりまして再質問をさせていただきたいと思います。

◎議長（石井昌治君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 議案第47号に関します館山市の幼稚園給食の実施予定についての御質問でございますが、実施の方向で検討中でございます。

次に、幼稚園給食に対する国の補助は従来どおりでございます。

また、幼稚園給食の対象についての御質問でございますが、公立幼稚園のみを対象と考えております。

以上です。

◎議長（石井昌治君） 辻田 実君。

◎1番（辻田 実君） 実施の方向であるということでございますから、ぜひその方向でやっていきたいと思います。特に最盛期には給食センターの利用が1万人を超えておったんでございますけれども、最近是非常に減ってきて、三、四十％減ったという状況でございますから、十分全地域の幼稚園を対象にしても大丈夫だと思いますので、ひとつそういうことが申し述べられましたもので、非常に歓迎をするというんですか、をいたしたいというように思います。

次に、補助は従来どおりということになりますと、これは例えば給食で使っている物資の相当数が給食のセンター、供給のセンターを通じて来るものですから、それについて例えばさっき申しました小麦だとか、いろんなほかのものについては義務教育だということでもって文部省の方で補助がついてるから、他に使っちゃいけないというようなことを盛んに言われておったんですけれども、そういうものが今でも相当、七、八十％がそういう物資になってると思う、これが法律改正なり規則改正がない、そういうものを利用するのが後でトラブルが起きるんじゃないかということでございますけれども、その点についてはどうかということと、それから幼稚園の分は物資、その他について材料といいますか、これは全く別枠に考えていくのかどうかということです。別枠に調達して別枠に考えるのかということが2点目。

3点目には、そういうふうになると、今度は幼稚園の生徒の原材料費というのは小学生よりも高くなるということが考えられるわけでございますけれども、そうした点は出てこないのかということでございます。

それから、4番目に、従来館山市は幼小一貫教育ということでもって10地区に幼稚園が設置されて、そして全部小学校の校長が兼務するというのもって、もう幼児教育から義務教育への幼小一貫ということでもってすばらしい成果を上げてるわけでございますけれども、そう

いう点では問題ないんですけれども、ここでもって私立の幼稚園の生徒、それから保育園の生徒、約 200人ぐらいになると思いますけれども、これらの人たちが今度小学校 1 年に入った場合に、給食を食べてきた人、それから給食をやらずに来たということでもって、いろいろな差別なり、教育方法、また給食実施に当たっていろいろな問題が出てくるんじゃないかというふうに思われますけれども、そうした点についてはどのように考えておられるのか、この点についてお伺いをしたいと思います。

◎議長（石井昌治君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 4 点の御質問でございますけれども、まず第 1 点、補助物品の件でございますけれども、現在も牛乳給食につきましては、これは補助は幼稚園も実施されておるところでございます。

なお、主食に値するところの米及び製粉等にかかわる補助でございますけれども、これについては現在義務教育につきましては、米について 49% 近い補助率があるわけでございます。粉につきましてはほんの少量でございます。それらにつきましては、学校給食会等を通じましてお願いをしているところでございます。

次に、その購入方法等につきましては、今回のものは枠外の扱いで幼稚園は購入をするということになるわけでございます。そこで、今議員おっしゃっているように、そこに経費の問題がかかわってくるのではないだろうかということでございまして、当然それは私ども試算をいたしまして、次のような方法で考えているわけでございます。そのようにお米につきましての補助がないわけでございますから、当然経費がかさむわけでございます。その経費につきましては、低学年の経費と同じような徴収方法をする。そのためにはやはり何らかの方法を講じなければならぬわけでございますので、主食でありますところのお米については 1 食についてのグラム数を少なくしたということ。それから、副食物については少しその量を少なくする。そして、現在のそれらを試算しますというと、月大体 130 円ぐらいの経費増ということになるわけでございますので、それを調整いたしますと幼稚園の生徒の経費もそれにつきましては同様に小学校の低学年と同じ扱いでこれが供給するといえますか、給食を実施することは可能であるということで今回の三芳村を実施したわけでございます。

次に、4 点目でございますけれども、この幼小関連性の問題につきまして、私立幼稚園並びに保育園等につきましての格差問題についての御配慮をいただきまして、まことにありがとうございます。これにつきましては、当然私どもといたしまして今後の課題ではございますけれども、私立の幼稚園及び保育園との関係によりまして一応試食会等を設けまして、何回かとっていただくことによってなれていただく。小学校または幼稚園との共同で幼稚園の就学前の体験入学というような場におきまして、一緒に給食をとってもらうこと等によりましてできるだけ格差是正

を図り、一日でも早く一緒に行動ができるというような配慮はしていきたいと思います。

以上です。

◎議長（石井昌治君） 辻田 実君。

◎1番（辻田 実君） 非常に結構な答弁でございまして、ぜひそういうことでやっていただきたい。今までの経緯からいくとよく今回は踏み切れた。制度なり法律というものの、また文部省の指導というものが大きく変わったような様子がない中で、私はすばらしいこととさせていただきますから、これは三芳の一幼稚園に火が上がったのが消えることなく、館山全域をひとつやっていたきたい。これは館山にとってもすばらしいことであろうと思うし、また県下ないし全国的にも幼稚園のこういうものを一貫して学校でやっているとこはあるかもわかりませんが、給食センター、公立のセンターを利用してやっていくというのはほとんどケースがないんじゃないかということで、館山はそういう面では県下でも全国的にも先導的な役割を果たすすばらしいものだというふうに思うわけでございますので、ひとつぜひその点をお願いしたい。この点について私の何か知識なり調査がおくれているのかわかりませんが、これ県下なり全国的にはこういう幼小一貫のセンター方式というのはかなり類例があるんでしょうかどうなのか、わかってる範囲でちょっと教えていただきたい。

もう一つは、先のことになってあれですけども、公立、私立保育園の人の差別というんですか、不利益、こういうものをひとつ今後十分生まれないように対応していただきたいと同時に、義務教育については公費の補助がかなり思い切ってできるんですけども、幼児教育については義務教育並みのようなぐあいにはいかないので、給食費は高くなるというようなことも出てくるだろうと思うけれども、今教育長の話ですと、そういう点は極力抑えていくということでございますから、ひとつそういう義務教育並みに館山市独自としてやはり幼児のこうした給食の問題についても保護していく方向でひとつ検討していただきたい、こういうふうに思うので、この点についてはどのようにお考えになっておるのか、以上2点を質問をいたしまして質問を終わりたいと思います。

◎議長（石井昌治君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 2点でございますけれども、第1点目、センター方式等による実施方はどうであるかということでございますけれども、県内におきましてもそのような方式をとっているところもございます。郡内におきましても、一部そのような形でセンター方式の中で実施しているわけでございます。それから、全般的なものについては鋭意そのように努力をし、全体が利益を受けるような方式というようなもので進展していくように実施方へ努めていきたい、こう思います。

以上です。

◎議長（石井昌治君） 以上で1番議員辻田 実君の質疑を終わります。

20番議員神田守隆君。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 議案第47号学校給食組合の規約改正の協議についてお尋ねをいたします。私の質問は、今質問いたしました辻田議員の質問と同じ質問になってしまって大変恐縮でありますけれども、再質問の関係もありますので、あえてさせていただきます。

館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合で幼稚園給食を実施可能にするために規約を変更するための協議となつてとのことですが、三芳村でも幼稚園給食が実施されるということで、先ほど辻田先生のお話では館山市が大変先進的ということでありましたけれども、実は幼稚園給食を実施していないのは安房郡市では館山だけだ、こういうふうな現状になっているのではないかなと思うわけであります。昔は幼稚園の子供がいるうちは母親は仕事に出るということは少なかったのですけれども、最近はそんな状況も変わりました。幼稚園に通園している子の母親も働きに出るケースもふえ、以前とは大分状況は変わってきているのが現実であろうと思います。幼稚園でも給食を実施し、その内容を充実したものになっているということが現在の現実的な方策になってきているのだと思います。今回学校給食組合の規約を改正し、幼稚園での給食を可能にするわけですが、館山市での幼稚園給食の実施についてどのようにお考えになっておりますか、お聞かせいただきたいと思います。

御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（石井昌治君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 議案第47号に關します幼稚園給食についての御質問でございますが、辻田議員にお答えいたしましたとおり、幼稚園給食については実施の方向で検討中でございます。準備が整い次第実施したいと考えております。

以上です。

◎議長（石井昌治君） 神田守隆君。

◎20番（神田守隆君） 幼稚園の給食という問題で、その人の成長をという点から見ますと栄養的な面ではこの給食は大変重要だ。同時に、文化的な面においても非常に大変重要な役割を持つのではないかと。子供のときに食べた味というのはその人にとって一生忘れられないものになる。その人のその後の食生活に大変大きな影響を与えることになろうかと思うんです。食は、食べるということは文化と言われるゆえんかと思うんですが、学校給食が契機になって国民食として定着していったというものも、そういう食品もかなりのものがあるわけです。私などは学校給食の最初の世代なのかなというふうに思うわけでありすけれども、幼稚園で給食ということに

なりますと、こうした文化的な意味も大変大きなものがあるのではないかと。幼稚園で食べた食事の味というものがその人のその後の一生にとっていわば思い出の味といたしますか、そういうものをつくっていくということで大変重要なものだけに、非常に現在の流れの中では小学校、今の学校給食と同じことというようなことで現実的には考えられているようでありますけれども、果たして当面それでは私もそれでいくのはやむを得ない面もあるし、当然のことだろうと思うんですが、同時にそういう幼児期というものに配慮した点も考えなきゃいけない面もあるのかなと思うんですが、その辺についてはひとつ研究課題なのかなと思うんですが、どのようにお考えになっておられるのかということです。

それから、準備ができ次第実施ということでありますけれども、準備といってもどういう準備が必要になるのかということでお考えになってる点です。私が考えてみますと、1つはまず0・157で一番被害が出るのは、深刻な被害になるといいますか、そういう点では年齢の若い子供の方がより深刻な事態になりますだけに、安全対策というのは今まで以上に——今までも十分注意してきましたけれども、さらに徹底しなきゃいけないということは当然だろうと思うんですが、同時に率直に言って幼稚園の子供に食事をさせるということは実は大変なことなんではないかなと思うんです。なかなかはしもよく持てないとか、もちろんスプーンだとかというようなこともあるでしょうし、そういう食事のマナーという点で、従来家庭で今まで行われてきたようなことも含めて給食の中で一定の指導ということも考えていかないといけないのではないかと、従来配膳ということでパートの方をお願いをして、三芳村でも今度幼稚園の先生が中心になってその辺をやられるというお話でありましたけれども、規模の大きなところなんかも含めると、食事のマナー指導なんかというのは幼稚園の先生の範囲だけで果たしてできるのかなという危惧も感じるころなんですが、その辺については受け入れ態勢というような問題でどういうふうにお考えになっているのか、お聞かせいただきたいなと思います。

◎議長（石井昌治君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 3点の御質問の趣旨じゃないか、こう思うわけでございます。

確かに食文化というようなものは幼児から形成されていくといろいろと変わってくるということはそのとおりでございますし、私もそのように理解はしているところでございます。当面そういったようなことにつきまして、私どもといたしましては小学校、中学校の当然給食のとり方というものとは違ってこなければならぬだろう。それには、1つはやはり楽しさというものをより多くそこへ加味しなければならないだろうし、それから2つ目はやはり今の食が大変豊かになってきているということ。それから、それらについての偏食面というようなこともあるわけでございます。それらをあわせまして栄養にバランス性のあるような方法ということを考えていかなければならない。そんな面からも、それぞれの園の状況によりまして、その配膳されたものの摂

取方法なり、それから摂取する場所だとか、それからそれらにおける方法だとか、そういったものが今後の研究課題になって、同一メニューの中でも摂取の方法によって楽しさが変わってくるのではないかという、これは1つの幼稚園の食指導というような中の一分野になってくるのではないかと考えられます。

それから、2つ目でございますけれども、ただいま議員のおっしゃるようないろいろの面で配慮しなければならない点が出てまいります。特にO 157が発生して以来、幼児または老人におけるいわゆる抵抗の少ないお子さん、老人の方に多発しておる状況でございますので、十分その点は加味しなければならないわけでございます。そのようなことから、私ども今後にわたって準備という二面性を考えていきたいと思うわけでございます。当然その基盤には幼稚園の職員の給食に対する指導が根底にあります。これは当然のことでございますけれども、それを食べるお子さんたちを持つ保護者の立場でいわゆる給食、幼稚園給食というものの理解をしてもらうことと、それから家庭と園との食に対する協力という体制をまず考えていかなければなりません。ただやってもらえば親が楽になるということは私はいけないと思うわけで、もっと食文化がやはりその家庭から出ている、それから給食からも出るとするならば、そういう理解面ということで一層働きかけが必要になるだろう、こう考えます。さらに追加するのは施設面でございます。現在小学校内に併設されている幼稚園はいいわけでございますけれども、ある程度単独になっている場合にはこれは受け入れ口等もつくらなければならないし、車の入ってくる進入路等も確保しなければならないという面。それから、各園ともそれに伴うところの設置場所とか、いろんな施設面や、またそれに要するところの機材等も、保冷库等々も考えなければならないわけでございますので、そういう面で安全を期すると同時にそれらの準備ということで、割合に経費もかかることとでございますので、その試算等も十分に組みましてまた皆様方の方へとお願いをしたい、こう思うわけでございます。

そんなために、3点目の受け入れとしての先ほど冒頭に申しましたように幼稚園の指導性というようなもの、それに伴う配膳への配慮として、大きなところはどうしてもパートの問題、または先ほど辻田議員もおっしゃいましたけれども、幼小の関連性からくるならば、同一校内においてはいわゆる縦系列、今横だけで縦の系列がございませんので、縦系列というような教育効果というようなことも考えながら、それぞれの学校、園ということでそれらにつきましての受け入れは十分に配慮をして臨んでいきたい、こう考えます。

以上です。

◎議長（石井昌治君） 以上で20番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

委員会付託

◎議長（石井昌治君） ただいま議題となっております議案第47号乃至議案第49号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎議長（石井昌治君） 日程第2、議案第50号平成9年度館山市一般会計補正予算（第2号）を議題といたします。

質疑応答

◎議長（石井昌治君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員辻田 実君。御登壇願います。

（1番議員辻田 実君登壇）

◎1番（辻田 実君） 私は、この議案書に基づいて質問をいたしますので、よろしくお願いいたします。議案第50号一般会計補正予算でございますので、この後半の部面に補正予算案がございますので、御参照をいただきたいと思います。

まず、第1点は、この補正予算の10ページ、歳出の項でございます。総務費、総務管理費の6目企画費の13節委託料、MANGA共和国事業化推進調査委託料 500万円の内容について御質問を申し上げたいと思います。この議案説明資料によりますと、この調査は事業内容、施設内容、事業体制等の調査を依頼する、こういうことになっております。そして、私は今まで聞いたことがなく、今回初めてだと思えますけれども、予備的調査を行うというふうに文字が出てきておりますけれども、予備的調査というのはどういうことであり、どういう内容であるのか、この点について教えていただきたいと思います。

2番目には、本年度スタートしたところのMANGA共和国事業化推進検討委員会との関連について質問をしたいわけでございます。この件につきましては、10日の行政一般質問で多くの議員から質問が出されまして、非常に大きな期待がかけられておるわけでございます。しかしながら、この推進化検討委員会は先月ようやく初会合を持ったという状況でございます。そのMANGA共和国事業化推進検討委員会の目的というんですか、これもこのMANGA共和国がどのような内容、規模になるのか、そして事業化ができるかということについて、事業、施設、事業化等について検討をするということになって発足しているわけでございます。そうすると、このMANGA共和国の事業化の推進検討委員会がまだ検討が始まらないうちから全く同じ事業化推

進調査をどこに委託して、どのような結論を出そうということなのか。これは検討委員会の内容と違ったら大変なことになるんじゃないか。常識的に、また私の受けとめ方としては、こういう調査内容が事業内容とか、それから施設とか、事業体制、こういうようなものを検討委員会の中で調査するということになってるにもかかわらず、それを結論が出ないまま調査始めたら検討委員会も困るだろうし、調査を依頼された先も困るんじゃないかというふうに思うわけでございませうけれども、ここで補正予算としてどうして組まれたのか、この関連についてわかるように御説明を願いたいわけでございます。

したがしまして、この点が私が受けとめてるように――補正予算で組むわけでございますから、今年度内にやるということでございますから、それと推進委員会の方も先ほどの行政質問の中にあったように、8月末にスタートして今年度内に結論が出せるのか、短期間で。出せますということでございますから、それほど急がれてるもの。そして、この補正予算に組むということは今年度内にやっぱし調査委託をして結論を出すということになりますから、場合によっては推進委員会が検討を始めた委員の人に調査委託先については場合によって失礼なことになるんじゃないか。それを無視して同じことを、もう専門機関に委託して500万も出すわけでございませうから、推進委員会の方100万ですから、ここら辺のことはそういう失礼な面が生じないか私は非常に心配でありますので、そういう点についてどこにどういう内容でどのような調査を依頼するのか。全く推進委員会で検討してる内容と同じものをここでもって予算化してやるということになりますから、そのところをちょっとわかりやすく御説明をいただきたい。そして、推進委員会とこの調査委託が所期の目的は十分果たせるようにひとつしてもらいたいわけでございませうけれども、何か今私はそういった疑問がありますので、この点をひとつお願いしたいと思ひます。

2番目には、同じ項目の下段に、12目諸費、13節委託料、東京湾アクアラインの完成記念イベント委託料194万9,000円があるわけでございますけれども、このイベントを主催する主催者というんですか、はどこになるのか。東京湾横断道そのものは道路公団のものであろうし、また県、神奈川県、そういうところでそれで東京湾対策委員会等もあるわけでございませうし、また説明欄についてはこのイベントの実行委員会をつくるということが出ておりますので、この実行委員会が主催するのか、主催はどこなのか、これをまず第1点聞きたい。そして、その主催者に対して委託料をお願いするのかということ。イベント実行委員会が設置されるようでございますから、イベント実行委員会に委託されるのか、そこら辺についてお伺いしたいと思います。そして、イベント実行委員会というのはどういう団体、どういう行政機関が参加して、どこが所管して事務局になって実行委員会が設けられようとしているのか、この点についてお伺いをしたいわけでございます。

3 項目めには、14節の使用料60万円というのがあるわけでございますけれども、この使用料はどこに払うのか。そして、どのぐらいの場所をどのぐらいの期間で借り受けるのか。そして、この借り受けた場所にどのようなものを展示をするのか。展示云々ということ書いてありますから、どういうものを展示するのか、内容がわかりましたら教えていただきたい。

3 番目に、その次に19節、出展の負担金というのが25万円あるわけでございます。出展ですから何か出すんじゃないかと思うんですけれども、この25万円の出展の負担金というのはどういう性格のものであるのか。出展すると今後もこれは継続してあそこは使えるのか。新聞等を見ますと、何か海ほたる何とかということで人工島が使われて、郷土の物産だとか、市の観光案内をするとか、千葉県の観光案内するとか、いろんなそういうあれが出ておりましたけれども、そういうコーナーを、館山市がポジションを買い取るというんですか、独占専用、これから1年なり2年なり使えるような形のものにこの負担金というのは結びついていく性質のものなのかどうか、この点についてお伺いをしたいわけでございます。

3 項目めは、12ページに移ります。12ページの一番上に1 目住宅管理費、15節工事請負費があるわけでございますけれども、これは笠名の市営住宅の屋根の改修工事27棟ということでございますから、屋根を修理するということになると、かなり傷んでくるんじゃないかということが思われます。しかも、27棟というかなり大規模なものであるわけでございますので、この笠名の住宅はいつごろできて、そして何年ごろまで耐用年数があるのか。そして、現在はその耐用年数に対して傷みぐあいというんですか、それはどういう状況になっておるのか、まずお聞きをしたいと思います。そして、屋根の大修理するわけでございますけれども、これによってあと何年ぐらい耐用というんですか、修理とか、そういう面について応急手当てはできるのかどうか、どのぐらいを見込んでおるのか、お伺いしたいと思います。以上、この2 項目について御説明いただきたいと思います。

それから、4 項目めは、10ページに戻ります。10ページの最下段でございまして、2 項清掃費のうち、2 目じん芥処理費、13節委託料 1,605万 3,000円が計上をされておるわけでございます。これは最終処理場かさ上げ事業調査委託料でございまして、現在この処理場はどのぐらいの量が処分されて、あとどのぐらい使用が可能な状況になってるのか、現況をまず第1点教えていただきたいと思います。

2 番目に、今回かさ上げすることによってどのぐらいの量が処理可能になるのか。そして、説明欄に使用期間を延長するために今回の予算を計上したということでございますけれども、今回のこの事業の実施によってあと何年ぐらい、何年まで使用が可能になるのか、その可能な年数がどのぐらいかということについて数字でひとつ、延長ができるというだけじゃわかりませんから、1年なのか2年なのかわかりませんから、これは何年ぐらい可能になるのか。今計算して

予定数をやっぱり示してもらわないとちょっと私たちも困るわけでございますので、これを教えていただきたい。

次に、関連でもって13ページに移ります。13ページに債務負担行為で 243万 2,000円が補正追加されておるわけでございます。今回の場合には調査の委託料でございます。これを何で 1,605万 3,000円と ― これ一般会計で入れます。そして、債務負担行為でもって 243万 2,000円をプラスしてやんなきゃいけないのか、なぜ分割しなきゃいけなかったんだということでございます。しかも、債務負担行為は10年度にわたってやるということでございますから、この調査委託を分割して、そして予算は片一方は一般財源で、片一方は債務負担行為で、こういうふうにして処理するということは何か不自然な感じがするわけでございますけれども、これはどういうことなのか。どうして一本でできなかったのか、そして2つに分けることのメリットはどこにあるのか、この点についてちょっとわからないものですから教えていただきたい。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第50号に関します第1点目、MANGA共和国調査委託料についての御質問でございますが、MANGA共和国事業化推進検討委員会、この検討議題についての資料作成、同委員会の検討結果と提言の取りまとめ、報告書の作成を行うものでございます。なお、この調査は基本計画策定のための事前調査として行うものでございます。

次に、第2点目、東京湾アクアラインの完成記念イベント委託料についての御質問でございますが、東京湾横断道路完成記念イベント実行委員会につきましては、これは千葉県知事が会長を務め、事務局を県土木部道路計画課に置くものでございます。イベントの内容につきましては、11月の21日から24日までの期間に東京湾アクアラインの木更津料金所から海ほたるまでを会場にいたしまして、花等の装飾、物産、観光PRを行う交流プラザ、伝統芸能などのイベントを行うものでございます。委託料、借上料及び負担金につきましては、このイベント開催に係るもので、物産、観光PR等で参加するための事務事業を関係団体に委託するための委託料、会場内の物産、観光PR等のブースの借上料、会場内に県内各市町村が分担して設置するフラワーロード等の負担金でございます。

次に、第3点目の市営住宅補修工事請負費についての御質問でございますが、笠名市営住宅は昭和35年から3カ年事業で建設されたものでございます。公営住宅法によります耐用年数は30年でございますが、今回の改修によりまして引き続き市営住宅として使用してまいりたいと考えております。なお、改修内容につきましては、雨漏り等の解消のため屋根の吹きかえ工事を行うも

のでございます。

次に、第4、債務負担行為についての御質問でございますが、最終処分場のかさ上げ事業を行うため、各種の計画、調査、設計等の委託料の補正をお願いしておりますが、実施設計が平成10年度に及びますので、債務負担行為をお願いしたところでございます。現況等詳細につきましては、部長より御答弁申し上げます。

◎議長（石井昌治君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） それでは、補足でお答えさせていただきます。

現在の処分場がいつまでもつのかというのが第1点の御質問であったと思いますが、現在の処分場の能力は7万4,200立方メートルでございます。現在のところで推定いたしますと、平成10年度いっぱい程度、このように見込んでおります。

それから、今後計画をいたします処分場のかさ上げでございますけれども、敷地面積は同じでございます。1万300平方メートルということでございまして、新たに4万5,000立方メートルの容量を確保しようとするものでございます。じゃ、何年もつかという質問につきましては、おおむね7年程度を予定をいたしております。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 辻田 実君。

◎1番（辻田 実君） 最初のMANGA共和国でございますけれども、これは調査の資料等を集めるという、また提供するというところでございますけれども、この調査の委託先はどういうところにどうお願いするのか。そして、検討委員会の資料にするためということでございするけれども、今からじゃとても、何か資料が調査が終わるのと検討委員会が年度内にやるのとどっちが先になるかわからないような状況になりやしないかというふうに思うわけでございするけれども、その点はどうか、この2点について再質問いたします。いいですか。1点目は、委託先はどこに、どういう機関に委託するのか。そして、2番目には、委託といってもすぐきょうのあしたと出るわけでないでしょうから、さっきの説明ですと検討するための資料、そういうものを調査云々ということでございするけれども、それが出る間には年度が終わってしまうんじゃないかというような感じがします。そうすると、かなり矛盾した予算の編成になるんじゃないかということでございするけれども、その点の懸念はないかどうか、この点について教えていただきたい。

それから、2番目に、アクアラインの問題についてはわかりました。新聞等でもって大々的にやっておるので、これは千葉県側でやるものだということで了承いたしまして、ひとつ盛大にやっていただきたい。特に館山はアクアラインの開通によるところの経済効果なり、市政の発展を非常にもう期待をして待ってるわけでございするから、できれば私はもう大々的にやってもら

いたいというのがお願いでございますけれども、予算から見ていくと随分少ないようでございますけれども、11月の21日からということで、市長の答弁でございますと、観光の宣伝、物産の展示、フラワーロードの設置等にやっていくということでございますけれども、館山市は何を重点にどういう形でやっていくのか。これはやっぱり市を挙げて、早く言えばこの宣伝に館山が非常にインパクトのある最高の宣伝をすることが、今後の館山の観光なり物産につながるものになるので、私はいいかげんには済まされないんじゃないか。ある面ではここに一つの命運をかけて一発勝負するというぐらいの意気込みがあっているんじゃないかと思うんです。そういう形の準備は市はやってると思うんですけれども、市のいろんな団体、商工会議所だとか、観光協会だとか、農業、漁業組合とか、そういうところのものが、花組合もありますから、フラワーボックス出すんですから、そういうところの知恵を集めて——非常に小さいスペースだと思います、借上料からいって。そこをどう有効に使うかというような、そういう検討なりはされておるんですか。そういうことをされておるとすれば、どういう形でやっておって、どういう方向にあるかということをお教えいただきたい。何か聞くところによると、そういうものも何かないようでもって、どこでもってだれがどういうものを出すのかわからないというようなこともちらほら聞いておるものですから、それは私が今言ったようにひとつこれから狭いところにもう集中的に、第一印象というのは非常に大切なわけでございますから、館山市の宣伝なのか、観光なのか、物産なのか、物産だったら農業やるのか、花やるのか、何やるのか、そういうものを、館山市はこれだということを絞っていかなきゃいけないと思います。そういう機関は考えておるのかどうか、ひとつそういうことでもってそこら辺の状況について教えていただきたいと思います。

3番目に、笠名の住宅でございますけれども、雨漏りがしておるから直すということでございますけれども、昭和35年に設置いたしまして、耐用年数30年というともう耐用年数切れちゃってるわけでございます。ここに——さっき質問したけれども、あと耐用年数はどのぐらい延長できるのかということをお聞いたんですけれども、耐用年数が過ぎて雨漏りがしておる。そして、これを1,020万修理出す。修理出したことがむだ遣いなんじゃないかというような感じもするんですけれども、もう耐用年数が過ぎちゃって、これ27棟も雨漏りのするようなものを、ちょっと応急手当したぐらいではすぐにこれはもう建てかえしなきゃ本来いけないことなんですけれども、この笠名の住宅については耐用年数はわかってるわけでございますから、それ過ぎてるにもかかわらず建てかえの準備なりそういうものはなかったのかどうなのか。この修理によって——先ほどの答弁漏れでございますので、あとどのぐらいもつのか。したがって、その後については本格的な建てかえをするのか、それとも廃止するのか、そういうものを含んである程度市の方向性が出ておらないと、耐用年数をもう何年か過ぎてるわけですから、ちょっと失礼だと思うので、ここら辺のところについての見解を、そこを聞きたかったんです。ですから、その点わかりやすく、

本当に親切的な福祉の面からいったこういう住宅政策をきちんとする意味から、ひとつその本音の部分聞かせていただきたいというふうに思います。

それから、じんかい処理場の内容についてはわかりました。ということは、1つ確認しておきますけれども、平成17年までは今の状況でいけば何とかもつ、予定としてはもつ、こういうことですか。それとも10年度までは大丈夫だということですが、9年度から見えていくと平成16年になるのか、16年か17年かこの点をひとつ明確に――予定としてはです。年度でやってもらいたい。

それから、調査設計委託料を2年間にわたるからといって債務負担行為でもってやるということとは、ちょっと私今までもそういうあれがあったのか、年度にまたがる場合には年度ごとに予算を、2年分割して来るといようなことで、説明でもって、工事にしてもあるわけでありまして、3年事業でやるところ、学校なんか3年でやっていく。それで、今年度は幾ら、来年度は幾ら、こういうことでもって、2年にまたがる場合には年度ごとに予算を計上していくわけですが、すけれども、この場合に――またしかも243万という非常に少ない額、1,800万から見れば。それを債務負担でもって繰り越して承認とるといのは何か変則なような気がいたしまして、どうしてこういう措置をとらなきゃいけないんでしょうか。今まで余り例がなかったようでございますけれども、ここら辺についてもうちょっとわかりやすく、1年でもってどうしてもだめだったら2期に分けて、10年度の方は債務負担行為じゃなくて、また予算を計上して2年度にしますと、今まで土木だとか教育施設とかそういうところはそういう形でもって予算組まれておったと思うんですが、債務負担行為ということでもってこういう形はまた答弁がちょっと納得できなかったものですから、どういうメリットがあるのか、どうして今回こういう措置をとったのか、その点についてわかりやすくひとつ教えて。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） まず、この調査委託の委託先をどこにという御質問でございますけれども、これは専門の経営コンサルタントを予定しておりますけれども、検討委員会の意見、助言をいただいた上で委託業者を決定したいというふうに考えております。

それから、この検討委員会につきましては何回もこれから会議を重ねていくわけですが、この会議のたびにその都度やはり検討議題につきましては細かい資料、データが必要になってまいりますので、これをその都度予備的調査をやりまして、そしてその会議に先立ちまして各委員さんにそういった資料のデータを整理をして整えるというふうな業務もございまして、こういったことで並行して、いわゆる検討委員会の会議を効率的に進めるためにそういった資料のデータを取りそろえるという業務もこの中にございまして、そういったことで並行して

進むということでございます。

以上であります。

◎議長（石井昌治君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 東京湾横断道路の完成記念イベントのための館山市のイベントの内容でございますが、どういう形で準備を進めていくかというようなことでございますが、まず館山市の出展の内容といたしまして5つばかりでございます。まず、1つに、房総フラワーメインズ、これは房総半島の形状をイメージした迷路を飾る花々で、市町村が持ち寄ってストックで花の装飾を行うというものでございまして、料金所を会場として行います。それから、フラワーロードというものがございしますが、内容は市町村が用意したプランター等を花装飾を行う。これは生け花でございますが、館山市の出展内容としてはスターチスの花を装飾参加をするということでございます。これは橋梁を会場として行います。それから、物産観光PRブースでございますが、物産内容として観光PRなどの市町村のPRを行うということでございまして、館山市の出展内容は観光物産PRの2ブースを利用して関係団体の協力を得て行うということでございます。それから、4つ目に姉妹都市のPRブースがございしますが、これは姉妹都市の紹介、各種交流事業の紹介等を行うコーナーでございますが、出展の内容といたしまして、石和町の協力を得て観光物産PR1ブースを利用し、ブドウ等の販売、そういったものを行う。これは人工島の1階を利用したいということでございます。それから、伝統芸能の競演ということで、館山市の文化団体の出演をお願いをしたいということでございます。内容といたしましては、フラメンコの実演、あるいはそれから里見甲冑のパフォーマンスの披露ということで参加をしたい。これは料金所を会場にしております。以上がこのイベント、館山市の出展の内容でございます。

それから、笠名の市営住宅の耐用年数を過ぎているので、何年ぐらいもつか、建てかえの計画はないかというような御質問でございますが、今回お願いするのは27戸、実際27戸でございますが、二、三の雨漏りでございまして、今回補正でお願いしたのは今後のことも考えまして屋根の吹きかえをお願いをしたということでございます。何年ぐらいもつかということでございますが、現在もう既に30年を経過してございますが、利用状況を改善しながらできるだけ延命を図りたい、このように考えております。現在建てかえの計画はございません。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 最終処分場のかさ上げ事業に関する調査設計に関する委託料の債務負担行為についてでございますけれども、市の会計につきましては予算単年度主義ということで、それぞれの年度に必要な経費につきましてはそれぞれの年度で予算計上していくというのが大原則でございます。しかしながら、本事業のように2年度にまたがるものについて内容が明らかな

ものにつきましては債務負担行為を設定し、議会の議決を得まして債務負担行為を設定いたします。この債務負担行為設定額につきましては、平成10年度予算におきまして予算計上し、執行していくものでございます。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 最終処分場につきましてかさ上げ工事が完了した場合何年度までもつのかという御質問でございますが、現時点での予測でございますけれども、平成17年度いっぱいぐらいと見込んでおります。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 辻田 実君。

◎1 番（辻田 実君） 第1項のMANGA共和国でございますけれども、それじゃ委託先はわからない、その都度討議の内容の中で必要なものについて調査をしていく、こういうことだと、500万という数字はどっから出てきたんですか。幾らかかるかわかんないじゃないですか、その都度調査していくって。審議の状況によってはどうなるかわからない。そこら辺ぐらいはやっぱりきちんとまとめて議会の予算承認もらうときは出さないと — 私は反対しません。でも、これじゃ終わってみたら何になるのかわかんない。承認得たから、足りなくなったからまたやります、これじゃちょっとずさんと言わざるを得なくなってしまうんじゃないですか。その都度でしょう。委託ですから、私はどこそこの研究所にもうこのぐらいのものを、こういうものが必要なんだからというようなことでもってこういう機関に委託するとかということでもって委託するのかと思ったんですが、予備調査なら予備調査なりのものをある程度スタートのときからやっていかなくて、委員の人にちょっと失礼じゃないかと思います。いろんな人が十何人いるわけですが、資料もない。そして、検討していく。その検討の中でもって必要な資料はまた調査委託してそろえる。やはりもうある程度資料は用意して、こういうような資料に基づいてひとつ検討の材料ということでもって持っていないと、審議というのはそれは進まないんじゃないですか、本当のこと言っ。そこら辺はひとつ — 私はこれについて反対はしません。だけれども、そこらはやっぱり慎重にやっていただきたいと思います。そうじゃありませんか。その点についてどのように考えておるのか。したがって、調査委託料こうして出す場合には、やはりどこにどういうものを、どのぐらいの規模になるから 500万円ぐらいになるとか、1,000万ぐらいになるとかというの大体あると思います。今の答弁だと、答弁の中でもって必要に応じて調査をして、そしてその都度やっていくとなると幾つやるかわかんないし、それじゃ審議が進まないじゃないですか、推進委員会。そういうような推進委員会をスタートさせても意味がないんじゃないですか。スタートさせるときにはやはり資料等は十分調査しておいて、それをもとにして委員の人をお願いする

というのが常識じゃないですか。私は市民の期待も大きいわけですから、そういうところをひとつ慎重にやっていただきたいと思いますけれども、その点はどういうことなのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

あとは、おおむねひとつそういうことでもって善処していただければ結構でございます。ただ、アクアラインの問題についてはいろんな団体から出るようでございますから、団体間の調整をしてひとつ効果的にいくように、後でもってトラブルの起きないようにひとつ、うちの方の花をこういうの出したかったとか、芸能が少なくなっちゃったとか、いろんなあれがあると思いますから、やっぱり館山市民合意でもってこれ出さないと、あそこ出してうちを何で出してくんなかったとか、そういうようなことのないようにひとつ慎重にやっていただきたい。

以上で質問を終わります。

◎議長（石井昌治君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 事務局といたしましては、委託先の経営コンサルタント、これは考えがあるわけでございますけれども、一応検討委員会の御意見、御助言をいただいて、その趣旨に合う経営コンサルタントということでもって、確認をするという意味でもって先ほど御答弁申し上げました。それからまた、委託料のこの金額でございますけれども、これはあくまでもシンクタンクの頭脳提供に対する対価でございますので、御理解をいただきたいと思います。

以上であります。

◎議長（石井昌治君） 以上で1番議員辻田 実君の質疑を終わります。

20番議員神田守隆君。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 議案第50号一般会計補正予算（第2号）についてお尋ねをいたします。

地方債調書の補正についてまずお尋ねをいたします。議案の14ページ、地方債の前々年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込額に関する調書の補正と随分長いあれですけれども、これで見ますと今年度末の地方債の残高は182億円余になります。そして、地方債は借金でありますから、今後の税収を先食いをしているということになるわけで、巨額な地方債の残高は今後の財政運営に大きな足かせになるわけであります。特にバブル期の高い金利のときの債務は資金に余裕があれば繰上償還することが求められるわけであります。減債基金や財政調整基金を金融機関に預金して運用しましても、現状では大変低利でしかないの、それを取り崩して高利地方債の償還に用いることは財源の効率的な運用になるわけであります。全国各地の自治体で実際にこうした繰上償還が実施されているわけであります。しかし、繰上償還のためには何らかの財源がないとできないという問題もあります。これに対しまして低利への借りかえ、これは特に財源は必要ありません。ことしの3月に千葉県市川市では、千葉銀行と農協

からの借り入れのうち、7%以上の利率のもの、これを5%に変更するということで協議は整いました。これによって5,476万円の利息の負担が3,900万円に1,576万円軽減されたということでもあります。手持ち資金に余裕がなくとも低利のものに借りかえするということは実際に可能であります。低利借りかえは法的にも可能でありますし、新たな負担を伴うということにはなりませんので、自治大臣や県知事の許可も何ら必要ありません。市独自の判断で金融機関と協議をすることができるわけであります。財政運営上、高い金利のものは低利借りかえ、または繰上償還等をすべきと思うのでありますが、どのようにお考えになっておりますか。また、館山市の現在の地方債残高の現状について高い金利のものがどのくらいあるのか、その現状を金利別に内訳をお示しいただきたいと思うのであります。

次に、10ページであります。企画費の中でプロ野球のキャンプ対策事業が計上されておりますので、これについてお尋ねをいたします。議案の説明書の11ページによりますと、697万円でプロ野球キャンプ対策業務委託料及びプレハブハウス賃借料に使うということですが、これは具体的にどういうことなのか、御説明をいただきたいと思うのであります。また、この費用約700万円ということになるわけですが、今後とも毎年必要になるそういう性格のものなのかどうか。さらに、このプロ野球のキャンプに市民の税金をつぎ込むわけですから、この事業の公益性について、市民にとってどういう意味があるというふうにお考えなのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、通告では東京湾アクアライン完成記念イベント出展等事業について行いましたが、先ほど辻田議員の詳細な質疑と答弁がございましたので、省略をさせていただきます。

次に、同じ10ページの煤煙等測定委託料についてお尋ねをいたします。日本のダイオキシン精製の8割以上は、一般のごみ焼却場で発生していると言われます。塩素を含む有機物などの廃止物が焼却される際に発生し、煙や灰を通じ生活環境全般を汚染していると言われますが、焼却場の焼却物の中で具体的にどのようなものがダイオキシン発生の大きな要因になっていると認識をされておられるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

また、先般小中学校等学校の焼却炉がダイオキシン対策のために使用中止ということになりましたが、それ以外の公共施設、市や県や国等かなりの公共施設が市内にはあるわけですが、ここにおける小型焼却炉の設置状況や稼働状況、あるいは民間の事業所においてもこうした小型焼却炉が設置されているかと思うのでありますが、こうした小型焼却炉の設置状況等についての調査をされるお考えがあるのかどうか、お聞かせをいただきたいと思います。

答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（石井昌治君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第50号、その1、地方債の繰上償還及び低利借りかえについて、この御質問でございますが、低利借りかえにつきましては原則的には認められておりません。また、繰上償還につきましては、現在実施できるような状況にないと考えております。利率別の市債残高等につきましては、総務部長より御答弁申し上げます。

議案第50号一般会計補正予算の第2号、プロ野球秋季キャンプについての御質問でございますが、ロッテ球団の秋季キャンプが県立館山運動公園で予定されておりますので、キャンプ対策業務といたしまして打撃練習施設の雨天対策設備や歓迎PR用看板等の制作を、仮称でございますが、秋季キャンプ実行委員会、これに委託しようとするものでございます。プレハブにつきましては、選手のミーティング、着がえ、食事の場所等として借り上げるものでございます。なお、来年度以降のキャンプ予定につきましては未定でございます。また、館山市民にとりましては、テレビ、新聞報道による地元館山市のイメージアップや選手、球団関係者によります長期の滞在、見学者の来訪等によります経済的な効果、さらにはプロの技術を間近に見られる機会に恵まれるとともに、スポーツを通じました青少年健全育成の一助につながるものと考えております。なお、昨年のキャンプにおきましては、一流コーチ陣の高度な技術のもとに館山市スポーツ少年団及び指導者を対象といたしました少年野球教室が開催され、青少年に夢と希望を与えるなど非常に好評でございました。

次の第3は、お話のとおりアクアラインの問題は省略します。

補正予算の第4、煤煙関係、ダイオキシンの発生要因についての御質問でございますが、塩化ビニール、発泡スチロール等、プラスチック類の不完全燃焼の際に多く発生すると言われております。

次に、小型焼却炉の設置状況等の調査につきましては、市の施設は既に調査済みでございます。国、県及び民間の事業所等につきましては法的規制はございませんので、現在のところ調査の計画はございません。

以上です。

◎議長（石井昌治君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 地方債調書の補正についての追加説明をさせていただきます。

利率別の市債残高でございますが、平成8年度末におきまして利率5%以下が125億4,134万9,000円、5%を超え6%以下が12億2,144万3,000円、6%を超えますものが35億5,401万3,000円でございます。なお、高い利率のものも残されておりますけれども、これらにつきましては元利の償還につきまして地方交付税措置がなされているものも多く含まれておるところでございます。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 神田守隆君。

◎20番（神田守隆君） 財政問題というとなかなか難しいあれなんですけれども、市長さんの御答弁では低利借りがえはできないという、法的にできないというような御答弁がありましたけれども、実際に市川市はやりました。これは縁故債については低利借りがえは法的には全く問題はないんです。しかも、国あるいは県の許可を必要といたしません。したがって、千葉銀行なんですけれども、それから農協なんですけれども、ここでは実際にやったんです。金額はそう大きなものでは、3億円ぐらいですけれども、しかし現実に行ったということは、今まで常識的には低利借りがえは無理だ、法的にできないというふうに信じられたわけけれども、そうではない。法的に検討してみれば何ら問題ない。現実にはできたという事態が生じたわけで、しかも千葉銀さんが相手ですから、これは館山市の指定金融機関でもあるわけですし、縁故債に関してはまず可能なんだ。それによつては協議、あくまでもこれはお互いの協議ですから、協議はし得るということで、市としても市川の資料も取り寄せながらそういう検討が必要でないかなと思うんです。

それと縁故債は全体としては大変少ない、占めてる比率は少ないわけで、基本的には政府資金ですか、これが地方債の残高のほとんどを占めるかと思うんです。それで、この政府資金については利ざやが生じないという原則的な形になってるわけです。実際そういう貸付金利とそれから預託金利か、それは同一であるというようなことになってるものですから、現実的に生じないということがあるから低利への借りがえというのは大変難しい。大蔵省が絶対認めない。幾らここで低利への借りがえをすることできますというふうに協定で書いてあっても大蔵省が絶対認めないという問題があるわけなんですけれども、私は政府資金の半分以上を占めるのは郵便貯金です。郵便貯金は今96年度末ですか、2兆9,000億円の利ざやの利益、残高を持ったんです。この2兆9,000億円というのは大変な金額で、1人頭で考えてみると、館山市民5万として考えると10億円以上の利ざやが実は郵便貯金の中で生じている。確かに郵便貯金から政府資金として資金運用部資金に流れて、そこから来る貸し付けということになりますけれども、実際にはその利ざやはこの間郵便貯金に膨大な形で生じているんじゃないか。郵便貯金は非常に今低い金利ですから、国民に還元するべきだ。これは考え方としては郵便貯金の預けている預金者の利息、これをもっと上げるべきだという意見もあると思うんですが、なかなかそういうことも今の中で民間金融機関との関係で難しい問題も生じてる中で、これは郵便貯金の利ざやを――結局は我々が、市町村がそれをせさせ、せさせと払っているわけですから、これは全国の市町村に還元するという形で国民に還元するということはあってもいいことじゃないか。これ随分大きな話をしてますけれども、そういうやはり、それで大蔵省が頑迷にその辺姿勢を持ってるということが、やはりこれは大きな問題ではないかなという認識を全国の市町村から声を上げていかなきゃいけないんじゃないかな

いかなということをするんですけれども、ちょっと大きな問題で恐縮ですけれども、非常に政治問題、全国的な政治問題ですけれども、同時にこうした財政力の弱い市町村にとっては現実に郵便貯金に膨大な利ざやが生じているというこの現実を着目する必要があるし、それを国民に還元するというようなことで今郵貯の民営化という議論がされてますよね。郵貯が本当に国民の利便ということを考える、郵政省が本当にそう言うのならば、こういうことで大蔵の頑迷な態度に対してやはり全国の市町村を味方につけるぐらいの度量で低利借りがえなり、そういう形で国民に還元していくんだという姿勢を持たせていくことが必要じゃないか、そういう提言をしていくことが必要なんじゃないかなと思うんですけれども、ちょっと大きな話で恐縮ですけれども、館山市の財政ということから大きな視点からぜひ議論をお願いしたいと思うんですが、感想的な意見となるかと思いますが、いかがお考えになりますか。

それと、ダイオキシンの問題でお尋ねいたします。ダイオキシンの発生の要因になっているものは、塩化ビニール、発泡スチロール等の問題だということでもありますけれども、せんだっての一般質問の中でもこのプラスチック類の回収についてはなかなか最終処分の問題で結局見通しが立たないというような御説明がありましたけれども、だからやっても当面余り意味がないということになるのかなと思うんですが、現実に例えば食品トレーなんかですと、市内のスーパーへ行きますと回収してるわけです。あの回収ルートを追っかけていきますと、ちゃんとやっぱりそれなりの処理工程に入って、再生利用なりそういうルートに乗ってきて再生品されてるんです。それはこの間のお話ではプラスチック類は集めても処理の方法がないんだと言うんだけれども、現実にはあるのではないかな。そこらをもう少し探る必要があるんじゃないかなと思うんですが、その辺についてどういうふうにお考えなのか。その辺についての調査をして、そういう道ができるんならばこれは十分発泡スチロールとかプラスチック類の分別収集ということで考えなきゃいけないことなんではないかなと思うんですが、その点どうお考えか。

それから、日本のダイオキシンの汚染というのは世界的に見て最悪の状況だ、こういうことが言われてどきっとしたわけですが、現在髪の毛をむしって、そこでその人の体内に蓄積されてるダイオキシンをはかるという技術が開発されてるそうでもありますけれども、その調査によれば焼却場で働く労働者は一般の方に比べてダイオキシンの汚染が4.4倍蓄積度があるんだ、こういう調査がされて、実にこれは深刻なことだなと思ったわけなんです、市の職員の方々の健康問題という面からもこのダイオキシンの問題でやはり考えないといけないんじゃないかなと思うんですが、そういう視点からの検討なり対策なりということは考えられておりますか。

◎議長（石井昌治君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 地方債に関します政府資金の取り扱いでございます。郵貯の利益を活用いたしました地方債務の軽減ということでございますけれども、これが実現できるといたし

ましたら私どもにとっても大変ありがたいことであろうというふうに考えております。市の債務の軽減という観点からいたしますと、大変ありがたいことではございます。しかしながら、国鉄清算事業団の債務等、国におきましても大変厳しい財政状況の中にございます。国、地方を通じました今後莫大な金額になります債務をどのように処理していくかという議論の中で検討されていく事柄だと考えておりまして、これからの国の行財政、特に財政構造改善改革等に関します議論を注目してまいりたい。その程度の答弁で御了解いただきたいと思いますが。

◎議長（石井昌治君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ダイオキシンの関係で、いわゆる塩化ビニール、プラスチック類等の分別収集何か方策があるのじゃないかという御質問でございますが、御指摘のようにトレイ、いわゆる発泡スチロールでございますけれども、大型店等では店頭回収がされている。それから、漁業用の発泡スチロールにつきましても、これはそういう関係団体によりまして回収のそういうルートがあるということは私ども承知しておるわけでございますが、これを市サイドの収集の段階で考えてまいりますと、必ずしもそういう発泡スチロールで回収ルートのできているものとばかりは限らない部分があるわけでございますので、さらにそれをまた再分別してやっていくかどうか、分別の技術の問題でいかなものかと今判断があるわけでございます。ただ、そういうふうにあるルートにつきましては現存をするわけでございますので、そういうルートの活用を通じまして総体的に減量を図っていくということは可能、このように考えておりますし、またそういう方向で検討をしてまいりたいと考えております。

それから、現場で作業をする職員の健康管理の問題でございます。御指摘のとおり、私も新聞等でそういう髪の毛からダイオキシンの数値を計測することができるということは見ております。今後の健康診断の中に取り入れていくというようなことで考えてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 以上で20番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

委員会付託

◎議長（石井昌治君） ただいま議題となっております議案第50号は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

◎議長（石井昌治君） 日程第3、請願第16号乃至請願第21号の各請願書を一括して議題といた

します。

委員会付託

◎議長（石井昌治君） ただいま議題となりました各請願は、お手元に配付の請願付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議長の報告

◎議長（石井昌治君） なお、この際申し上げます。

9月5日の議会運営委員会までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり、所管の常任委員会に送付しましたので、御報告いたします。

延 会 午前11時35分

◎議長（石井昌治君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（石井昌治君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明13日から16日までは議案調査のため休会、次会は9月17日午前10時開会とし、その議事は平成8年度各会計決算の審議といたします。

この際、申し上げます。平成8年度各会計決算に対する質疑通告の締め切りは16日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第47号乃至議案第50号
- 1 請願第16号乃至請願第21号

